



未来の医療を支える“研究開発型企业” として、安定供給と品質を守り抜く

当社は、研究開発型企业として、独創性ある製品の創出と高品質の製品を適正に供給することにより、人々の健康に貢献することを使命として取り組んできました。この考え方は経営理念として、社員一人ひとりの意思決定や行動の指針となっています。こうした取り組みを日々積み重ねてこられたのも、多くの皆さまに支えていただいているからこそです。あらためて深く感謝申し上げます。

このような理念のもと、当社は創業以来、後発医薬品の分野においても、単なる先発品の代替にとどまらない患者さん本位の付加価値を追求してきました。服薬しやすさや使いやすさといった視点から、医療現場のニーズに応える製剤技術を磨いてきました。たとえば、苦味を抑えるマスキング技術の導入、小児向けに風味を調整したドライシロップ、口腔内崩壊錠の開発などは、「より良い医療を届ける」という思いを形にした

取り組みです。こうした技術力を最大限に発揮するため、開発・生産・品質保証・販売までを自社で一貫して担う体制を整え、医薬品を社会に届ける責任と向き合ってきました。

2024年にはヤクルト本社より抗がん剤の製造販売を承継し、自社製品として抗がん剤の販売を開始しています。抗がん剤のように高い専門性と品質管理を要する分野でも、研究開発型企业として培ってきた技術とノウハウを活かし、開発・生産・販売の三位一体体制を確立しています。今後は、これからの成長を支える重要領域として、さらなる専門性の強化に取り組んでいきます。

安定供給の確保と選択と集中による経営戦略

2024年度は、供給面でも大きな転換の年となりました。感染症の流行パターンが通年化し、需要予測が従来よりも難しく

なるなか、当社では全製品を3つの優先度に分類し、主力製品を中心に定期定量生産へと移行しています。具体的には、小児向け4製剤（カルボシステイン、アンブロキシソール、クラリスロマイシン、トスフロキサシン）を軸とした生産ラインを2交代から3交代シフトに切り替え、リソースを集中。限定出荷の解除や在庫の確保に成功し、他社で供給停止が発生した際には代替製品を提供するなど、安定供給の確保に貢献しました。

2025年度以降も、薬価の継続的な下落や原材料費・エネルギー費の高騰、さらには業界再編の動きなど、経営環境は一段と厳しさ、複雑さを増していくと予測されます。私たちは安定供給の責任を果たしながら、品目を厳選し、重点領域にリソースを集中的に振り向ける「選択と集中」を一層進めていきます。また、提言されているコンソーシアム構想などの企業間連携も活用し、複数企業が各々の得意分野を活かし、開発・生産・技術面で協力し合う仕組みづくりにも前向きに取り組んでいきます。これにより生産効率を高め、有事の際にも必要な医薬品を安定的にお届けできる供給体制を、業界全体で構築していく考えです。

高田の3つのAを基盤とした長期ビジョンと持続的成長

こうした事業活動を支える屋台骨となっているのが、当社が掲げる「高田の3つのA（安心品質、安定供給、安全情報）」です。いずれも医薬品を社会に届けるうえで欠かせない基盤であり、当社は創立133年、設立100周年（2028年）を見据えつつ、さらに30年先、50年先の未来の医療インフラを支える企業へと成長していきたいと考えています。単に「製品をつくる」だけでなく、「社会に本当に必要とされる存在であるか」を問い続ける。その視点こそが、私たちの長期ビジョンの中核です。

また、2020年に発足した「TAGチーム」を中心としたサステナビリティ活動の成果も、着実に広がっています。今秋、ミーティングは通算60回となり、当初は試行錯誤だった取り組みも、いまや全社的な動きへと発展しました。環境に配慮した容器素材の導入や医療資材の廃棄分別など、社員が自ら気づき、行動する文化が社内に根づきつつあります。

加えて、ガバナンス改革による意思決定の透明性と実効性の向上にも力を注ぎました。取締役の任期短縮、法務部門の昇格と人員拡充、社外監査役によるモニタリング強化など、段階的に経営体制を再構築しているところです。定期的な



執行役員会や部長会・課長会を通じたカスケードダウンの仕組みづくりにより、組織全体としてのガバナンスを高め、重要事項やリスクへの対応を迅速かつ的確に行える体制を整えています。

これからも私たちは、「安定供給」と「信頼される品質」という揺るぎない軸を据え、必要な医薬品を必要なときに確実に届ける責任を果たしていきます。今や“当たり前”ではなくなりつつある安定供給を守り抜くという覚悟こそが、当社の使命です。そして、その先にある研究開発型企业としての価値——服薬しやすい製剤技術や高活性領域へのチャレンジなど——を通じて、これからの医療と社会に一層貢献してまいります。

2028年、設立100周年という大きな節目も通過点として、これからもずっと、人々の健康を支える存在であり続けること。それが高田製薬の変わらぬ目標です。これまで以上に誠実に、着実に歩みを進めながら、皆さまに「高田製薬があって良かった」と思ってもらえる企業をめざしてまいります。どうかこれからも温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

高田 浩樹